



デマンド型乗り合い交通



ドア・ツー・ドアの考えは

荒木三朗

広谷地行き
那須町デマンド型乗合交通登録カード

登録番号 氏名
停留所番号 267 利用区分 イ

行きの便	停留所発	那須高原 友愛の森着	那須高原 友愛の森着	帰りの便	
	9時50分	10時20分			10時20分
	11時20分	11時50分			12時40分
	13時40分	14時10分			14時40分
	16時00分	16時30分			16時50分

デマンド交通の登録カード

町 交通空白地帯の解消整備を図る

問 デマンド交通のあり方について、地域公共交通を確保、維持していくためには、目的を明確にした上で、地域に見合った、効率で利便性の高いシステムを確立する必要がある。過疎化が進む中で、利用者の立場に立つて、最良の利便性、「本当に助かった」と思わせるような交通体系

が必要と思われる。利用者の高齢化、低価格での費用負担、タイムリーな運行をするためには、ドア・ツー・ドアしかないと考えるが、今後のデマンド交通についての施策は。

空白地帯を解消するため乗り合い交通として整備。大幅なデマンド交通の見直しを行い運行本数の増便、目的地の停留所追加、利用者を限定した総合病院への乗り入れなど、10月実施に向けて準備している。

※支線という意味

移住対策としての教育費無料化を

町 総合的に計画が必要

問 若年層の移住促進をすすめる手段として、将来の教育費を貯蓄するため、子育てにかかわる費用を義務教育期間だけでも、また教育を受ける機会均等から費用は免除、無料にすべきだと考える。さらに格差が子供の将来の選択肢を狭めな

いよう支援することも、定住化の施策として学習支援事業を強化し、本町の教育環境を整備することが大切である。義務教育費無料の施策展開で若年層の定住化を図る考えは。

り実施している。さらに小学生英語体験研修事業や、温かい給食を提供する自校給食など特色ある教育を推進している。また、義務教育期間に限らず、子供が生まれる前の妊娠期から18歳まで総合的な計画が必要と考える。

学校教育課長

新学習指導

要領を見据えたプログラミング教育の実証事業を県内の市町に先駆け、今年度よ